



日本聖公会 川越基督教会  
資料委員会 便り  
ARCHIVES NEWS

第13号  
2025年  
4月20日  
発行

## 鳶の教会のアーカイブズのことなど

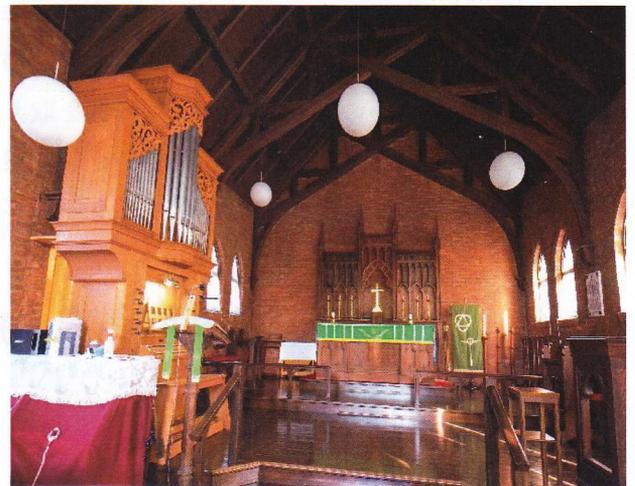
—わたしたちの教会のアーカイブズって、どんなものでしょうか?—

玉木純子

川越基督教会では、歴史資料委員会が奉仕活動で資料を整理しています。過去に書かれた記録を登録して誰でも利用できるような資料にしたもので、それを「アーカイブズ」と呼んでいます。利用するにはパソコンのデータベースで画像を見ることが出来、原本は委員が対応して閲覧することが出来ます。アーカイブズは紙だけでなく、写真やカセットテープ、ビデオテープなどの記録や、広く見れば椅子や建物までも含まれます。委員会では今のところ文書類を手掛けており、そういったアーカイブズがどのようなものなのかお伝えしたいと思います。

牧師館2階の図書室のロッカーや棚に収納されているのが、登録済みの資料です。それらは「福島Box」「松平資料」「信徒資料」「モノ資料」として、それぞれの(なつかしい)名称にちなんだ由来を持っています。データベース登録や画像作成は「松平資料」まで手掛けられていて、ダンボール18箱中12箱分が登録されています。「信徒資料」は逝去された方の未整理資料、「モノ資料」は定礎の中に入っていた物品資料で登録済みとなっています。

これらの資料からは、教会の草創期の宣教師や司祭、信徒や町の人々の様子、幼稚園や地域の歴



史について具体的に知ることが出来ます。昭和の頃の「ジュニア」の若者たちが書いた文集やクリスマス劇の台本などからは、教会が活気に満ちていた頃がしのべられます。和紙に墨で書かれた明治・大正時代の綴や、第二次世界大戦頃の大変質の悪いものもあり、それらは特に残りにくい珍しい資料でもあります。

そもそも委員会は、1992年に「資料(文書)保管委員会」として少人数の奉仕によって始められました。今日のようなパソコンのデータベースを用いた活動となったのは、10年前のことです。毎週(水)の午後に図書室で、記録の登録・画像作成・封筒へ入れる作業などを行っています。その際資

料の劣化状況も確認し、保護のために中性紙封筒を使うなどの対処をしています。

資料の保存と活用は相反するようですが、それぞれの理解のために行っています。内外へ向けての活動としては、年に数回「資料委員会便り」を発行して資料紹介や研究・活動報告などを行う他、「礼拝堂見学会」(春と秋)の際に資料公開をしています。また内部では、研究会や見学会、信徒個人へ向けての発信もあります。これは教会ならではの活動だと思うのですが、久しぶりに教会へ訪れた信徒の方に、本人の書いた文章を検索・プリントして、お茶を飲みながら昔話に花を咲かせています。また、逝去された人が記していた文章をプリントして、「思い出の記録」として遺族の方たちにお渡しすることもあります。

以上が教会のアーカイブズについての説明です。ところで、なぜ資料を守るのでしょうか。100年先へ伝えようとする、途方もないそのことをどのように考えたらよいのでしょうか。礼拝堂を取り上げてみます。教会へ人が訪れる理由の一つに建物の存在があります。ちょうど100年くらい前に

この礼拝堂を立てた人たちはそれをねらっていたのではないかと思うくらいです。定礎は(100年後にまさか開けられるのは想定外だったでしょう)災害で建物が消失しても必ず残る(と当時の人が考えた最良の)方法で設置され、その時の記録としての新聞、硬貨、聖書といった資料が納められていました。

アーカイブズは教会を証明することのできる資料でもあるため、教会とセットで残されることが理想的だと考えています。建物のメンテナンスと同じく、アーカイブズとなった定礎物のような資料も適切に保存管理していくことで、実物の閲覧にも耐えることが出来ます。どちらがより多く永らえるかはわからないし、クリスチャン的には最終的に形というものにこだわる必要もないのかもしれませんが、ただ、委員の一人である自分自身に照らし合わせてみると、私は今生きていて皆もいるし教会も資料もある。それらがまぶしいので、自分が生きている間は残されたものを大切にしたいな、橋渡しをしたいな、と思ってそのような活動をしているというわけなのです。

## 牧師館奥の4畳半の住人

ルカ 野澤達也



大正期から昭和期にかけての牧師館

川越キリスト教会の昔の牧師館が建て替えられて現在の建物になってから25年になる。以前の牧師館を覚えておられる方も多いと思う。その

牧師館にまつわる物語である。

1940(昭和15)年に牧師として赴任したのが松原剛司祭で、宇都宮の教会から転任された。松原司祭は大阪教区の出身であった。やがて1944年10月、司祭にも召集令状がきて教会は牧師不在となった。松原司祭は1945年5月に戦地の中国北東部(満州)で戦病死された。松原司祭没後川越の牧師を務めたのは菅円吉司祭で、以後菅司祭が月に2度川越に来て聖餐式を務めた。同時に初雁幼稚園の園長も兼任した。そして菅司祭のご母堂が川越に疎開され松原一家と同居された。お住まいは牧師館の一番奥にある4畳半の間であったと思う。その位置は教会の敷地の北東隅の場所、

現在の会館では厨房外の洗濯機が置かれているあたりであった。当時牧師館とは言っても大きな部屋（旧館）と牧師の住まいは同じ屋根の一棟で、信徒も出入りして集会場などとも兼ねていたが、さすがにこの奥の部屋には信徒は立ち入らなかつたと思う。

同じころ教会の礼拝堂は陸軍に接收され、ここには盛岡の12616部隊の通信隊が駐在した。その間礼拝は会館で行われた。松原哲子さん（司祭夫人）によれば司祭の家族は遺族として丁重に接せられたという。1945年8月の終戦で軍隊は解散し、残務整理などを終えて9月に撤収した。駐屯していた兵隊はそれぞれ出身地に帰った。中に一人、行き場のない者がいた。それが私の父で当時31歳であった。東京の新宿に家があったが、空襲で丸焼け。当時の家族のうち母親は茨城県古河、妻と子（私1歳）は実家の山形県新庄。甥は学童疎開、弟は戦地から帰らず不明。とにかく集合する場所がなかったのである。

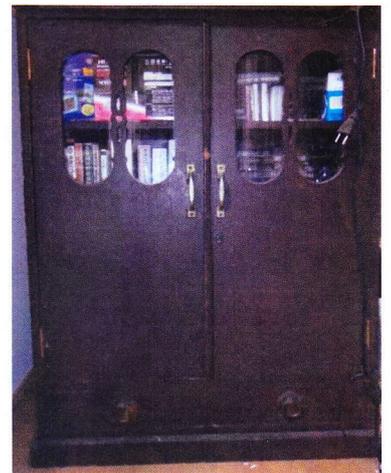
ここで声を掛けてくれたのが松原夫人であった。「とりあえずここ（教会）に集まりなさい」。空いている奥の4畳半を提供してくれたのだった。もちろん松原夫人の一存ではなく、当時管理牧師であった松村泰明司祭にも許可を受けていた。このようないきさつから野澤一家5人は親戚や知り合いのない川越で暮らすようになった。当時の社会情勢下では本当に幸運であった。牧師館の東側に台所があり、ここを松原ご一家と共用で使わせてもらって煮炊きをしていた。時には信徒の皆様も台所を使うことがあった。奥の部屋に見知らぬ人たちがいるのを不思議に思ったろう。母が言うには牧師（泰明司祭）さんの許可があるから、気にしなくていい、と松原夫人が言ってくれたそうである。

牧師館暮らしは約2年間1947（昭和22）年4月まで続いた。教会の北隣の一軒家に住んでいた家族が引っ越され、空いた。大家の松岡さん（葬祭店主）から貸してもらえることになり、塀を挟んだ隣家に住むことになった。

次の4畳半の住人は山岸樹郎司祭、当時は伝道師として松村司祭を助けて教会や幼稚園で働かれた。山岸師はその後税務署に勤務しながら教会の仕事を行った。やがて1950（昭和25）年、教区の人事異動で松平惟太郎司祭が東京府中の教会から川越に転任された。当時ご一家は奥様と4人の子ども、父、母の8人の大家族である。

今度は4畳半に松原夫人のご家族、2人のお子さんご母堂の4人が暮らすことになった。松原夫人は英語が堪能であり一時初雁中学校で英語の教鞭をとられていた。しかし、松平司祭が定住の牧師として着任され、皆さんに惜しまれながら川越を離れ、ご一家は出身地の大阪に戻られることになった。このあたりの事情は松平司祭の著書「鳶の教会」200ページに書かれている。

いよいよ引っ越されるということで会館には荷物がいっぱい詰まっていた。当時6歳だった私はその風景を覚えている。引っ越し荷物から外された小さな書棚があり、これは不用ということで、わが家にくださった。その記念品は少し洒落ていて幾度か塗り替えながらも現在のわが家で書棚として使われている。



# 川越に吹いた西洋の風

～保存資料は語る～

## ドゥエル ベーリ



駒野義夫伝道師（後司祭）は1902（明治35）年に青森県にある日本聖公会弘前昇天教会から川越キリスト教会へ転任した。1914（大正3）年に府中町へ転任した

までの12年間の日記が残っていて、その間の川越周辺の様子は少しでも市民の立場から見た貴重記録が多い。

今回、同日記を通して3つほどの課題に触れたいと思う。

1904（明治37）年12月31日「当川越町方中で初めて電灯を点火」、駒野日記に載っていた。

（図1）これは、東京・日本橋における日本初の電灯供給開始から17年後のことであった。（図2）

2年後、1906（明治39）年4月17日（火）川越・大宮間電気鉄道開業。駒野師はその日電気鉄道により大宮公園へ花見のため行ってきた（イラスト付き）。また、次の日4月18日（水）に電車開通式に参加した。当時、川越町（市になったのは1922年）の人口は2万人ほどであった。（図3）

同年4月16日に在川ヘーウッド宣教師の母や姉妹の歓迎会（川越キリスト教会設立者兼定住司祭田井正一の家で）に参加した。ニューヨーク辺りから遊びに来た。（図4）

その2年前にヘーウッド師はランソン宣教師と川越へ子供や女子教育を主に活躍するために派遣された際、同じ交通集団を利用し、1ヶ月程かかった。図5～図7はそれをまとめている。

追加に1908（明治41）年3月にアプタン宣教師はマータン女医と川越へ引っ越した。ヘーウッド師とランソン師と交代した。アプタン師の父のフランシスはエジソン発明者と白熱電球の開発も並列回路や電力量計などを共同で開発した。白熱電球の普及は1880年頃から。アプタン師らは1908年に川越へついたら、エジソンや父などの働きにより世界中への普及はまだ30年が経っていなかった。アプタン師の埼玉宣教の際、埼玉県内

アプタン師の埼玉宣教の際、埼玉県内の数多くの幼稚園設置などのために自分のお金も多く利用した。川越キリスト教会の土地を買うためにもアプタン師もマータン女医も寄付した。白熱電球の開発や普及などのおかげもあると思う。

\*\*\*\*\*

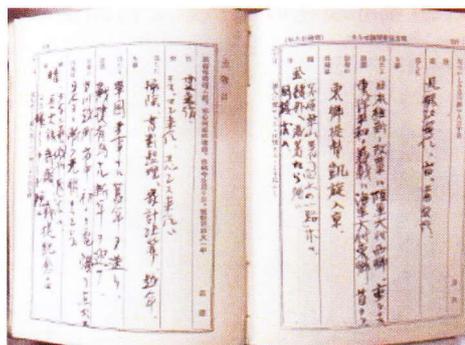


図1 1904（明治37）年12月31日、「当川越町方中で初めて電灯を点火」、駒野日記、p393）川越電気鉄道株式会社は既に現川越市三久保町の東京電力の所に埼玉県初の発電所（火力（石炭））を設置して配電線による電灯供給した（431戸へ）

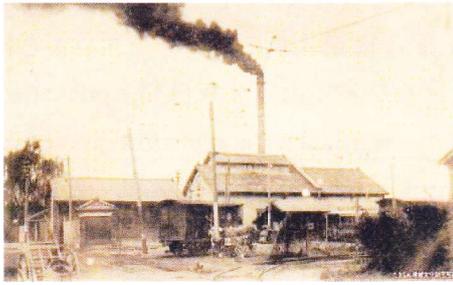


図2 2011 川越火力発電所(1911(明治44)年)、埼玉県配電線による電灯供給、電気ゆかりの地を訪ねて、vol21(社)日本電気協会 関東支部、抜粋「6:鉄道の要衝の地へ発展 ~ 川越 | このまちアーカイブズ | 不動産購入・不動産売却なら三井住友トラスト不動産」、たましん地域文化財団所蔵



図3 1906(明治39)年4月17日、川越・大宮間電気鉄道開業、同年4月18日電車開通式に参加、駒野日記、pp 112-113



図4 4月16日に在川へーウッド宣教師の母や姉妹の歓迎会、同年の復活祭は4月15日(日)であった、駒野日記、pp 110-111

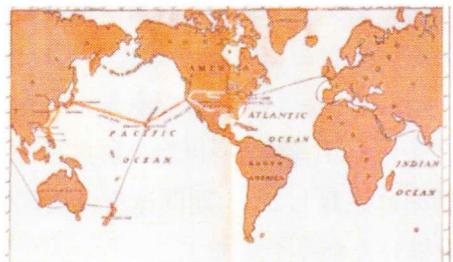


図5 1904(明治37)年8月17日、へーウッド師やランソン師は日本へ、ニューヨーク汽車でサンフランシスコへ出発、8月30日汽船で横浜へ出発、9月18日着、Pacific Mail Steamship Co.'s route map, c. 1910-1915(明治43~大正4年) :

<http://www.atlantictransportline.us/content/46Manchuria.html>

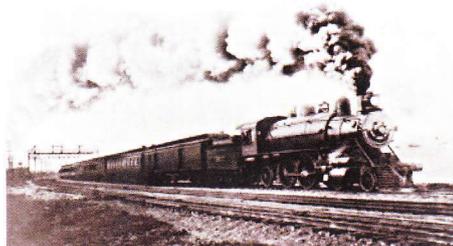


図6 1906(明治39)年、アメリカ大陸横断の旅客列車、The Overland Limited leaving Oakland, 1906(明治39年).jpg source :

[http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/c/ce/Overland\\_Limited.jpg](http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/c/ce/Overland_Limited.jpg)

[http://en.wikipedia.org/wiki/Overland\\_Route\\_\(Union\\_Pacific\\_Railroad\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Overland_Route_(Union_Pacific_Railroad))



図7 1904年8月-9月、ヘーウッド師やランソン師の太平洋横断、サンフランシスコから横浜への汽船、(ハワイ経由) 20日間、postcard from: <http://www.atlantictransportline.us/content/46Manchuria.html>

\*以上7つの図はサイズを大きくして「川越基督教会のホームページ」、歴史資料委員会のコーナーに掲載されていますのでご覧ください。

## 歴史資料委員会より

### 春季礼拝堂見学会

恒例になった「礼拝堂見学会」。本年は5月のゴールデンウィーク5日、6日に開催の予定。これまでの見学会とは内容も新たに、「川越に吹いた西洋の風—明治期の保存資料は語る—」のテーマに準備に入りました。

### 県立文書館を訪問

今後の資料整理について相談をするため、委員会メンバーは浦和の埼玉県立文書館を訪問しました。文書館主幹よりたくさんのご教示をいただくことができ、これからの活動に活かしていきたいと考えています。

文書館へ行く途中、別所沼公園を通ります。この公園は昭和初期に開設されたそうで、公園の四季を楽しみながらの気分転換のひと時になりました。



### 生かされた保存資料

先日、当教会の信徒の葬送式がありました。故人に関する保存資料を検索してみました。保存されている教会報に投稿されたものが数多くありました。これらを小冊子にまとめ、ご家族に差上げました。

### 委員の研究留学

資料委員会の委員である山口みどりさんはこの度、英国ケンブリッジ大学客員研究員として、1年間の専門分野の研究のため渡英されました。研究テーマは「ジェンダーの視点からみた19世紀イングランドの国教会—世俗の接点としての国教会牧師館に注目して」。期間途中で英国生活の様子を投稿いただく予定です。

350-0056 埼玉県川越市松江町2-4-13

川越基督教会 歴史資料委員会

2025年4月20日発行